

事後評価報告書(日本－中国研究交流)

1. 研究課題名: 「東アジアの諸都市の気候変化のメカニズムとその予測・計測・評価技術」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 国立大学法人東北大学工学研究科 教授 持田 灯

2-2. 中国側研究代表者: 華南理工大学建築学院 教授 Qinglin Meng

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

都市気候・市街地気候のモデルを改良し、それによるシミュレーションや、日本、中国の代表都市における実測の結果から、望ましい都市計画、建物配置計画等に関する提案が行われたことは評価できる。

本事業を契機に、日本建築学会に「東アジア諸都市のヒートアイランド対策ガイドライン検討WG」が設けられ、ガイドラインのドラフトが作成されたことも成果として認められる。このWGは引き続き継続されるので、本研究成果の更なる発展に期待したい。

(2)交流成果の評価について

日本側と中国側を合わせ、延べ出張日数が約400人・月と数多くの交流を精力的に実施することにより、幅広い人的ネットワークの構築と相互理解ができたことは評価できる。また人材育成の面で、助教2名、ポスドク2名、博士課程学生16名、修士課程27名と、計画時点の倍以上の若手研究者の育成とそれぞれの昇進ができたことも評価できる。

一方、日本から中国への訪問実績は17回、中国から日本への訪問実績は、日本で開催された平成25年、26年の成果報告会関連の2回のみと国際関係の影響により、訪問回数が、アンバランスとなったのは残念であるが、合計19回の実績が得られたことは、最大の交流成果を得るべく両国研究者が努力した結果であり、高く評価するとともに引き続き交流の継続を期待する。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本事業で構築された若手研究者を含む人的ネットワークを活用し、本事業で得られた研究成果にもとづき都市温暖化対策が展開されていくことを期待したい。